

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2020 年度



はじめに

コロナ禍による緊急事態宣言の下、JICA 横浜 海外移住資料館も 2019 年度末から続く休館の状態です。2020 年度の幕を開けました。

一方で、多くのミュージアムがコロナ禍で新たにできることを前向きに試行錯誤されたのと同様、当館も新たなプログラムを含め臨機応変に取り組んだ年度になりました。

企画展示は休館により大幅なスケジュール変更になりましたが、2 件の開催を実現しました。

一つ目は、「くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍-こぎゃんすごか、わさもんと肥後もっこす-」です。当館はこれまで、海外に移民を多く送り出した都道府県との協働による県別の企画展シリーズを実施してきました。本展は沖縄、和歌山、福岡、広島、高知に続くものでした。

熊本県を中心に甚大な被害をもたらした「令和 2 年 7 月豪雨」直後の開始となり、来館の方々と共に、かつて移住先で様々な苦難を乗り越えて未来を切り拓かれた熊本県出身の先人達に思いを馳せつつ、被災直後の熊本県の皆様の一刻も早い復旧をお祈りしながらの企画展開催となりました。

二つ目の企画展示は、「シアトルのハントホテルー日本語学校の知られざる歴史 1945-1959」でした。第二次世界大戦時に強制収容された日系人が、収容所から帰還した際に一時滞在所として使用したシアトル日本語学校（通称「ハントホテル」）に居住した日系人のインタビューや証言をもとに、ワシントン州日本文化会館ご協力のもと、パネルや実物資料等でご紹介しました。

コロナ禍での新たな取り組みとして、9 月からオンラインセミナーを開始しました。セミナーでは、ボリビアやペルーにある日本人移民と関わりのある資料館の紹介、第一回 JICA 海外移住懸賞論文受賞者による講演、企画展関連講座の実施、ブラジルやハワイにおける日本人移民の歴史やそ

の子孫の紹介、学術研究プロジェクトの成果発表等を行いました。セミナー参加者は横浜近辺・日本国内に留まらず、またオンラインセミナーを機に初めて当館を知った方々もいっしょに、新たな方々を含め広く繋がりを持つことができました。

これに加え、全国の様々なミュージアムが子どもたちが家で楽しく学べるようにとコンテンツを作成した「おうちミュージアム」にも参加し、2020年度に受け入れた JICA インターン生達と共に作成したコンテンツを掲載しました。

当館は開館から 19 年目を迎えましたが、この間、世界の変化とともに日系社会、日系人も大きく変化しています。

まず、日系の若い世代が増えて世代交代が進み、そのような若い方々が自身のルーツを当館で確認する様子をお見かけするようになりました。

次に、日本国内に住む日系人が増加しました。現在、日本には 30 万人以上の日系人が暮らしており、これはブラジル、アメリカに次いで世界で 3 番目に大きい日系人口になります。

さらに、「日系人」の意味が多様化しました。世代が進み、人々が移動するにつれて、「日系人」の意味は拡大し、またその個々人のアイデンティティに依るところも大きくなりました。

来年 2022 年に 20 周年を迎えるにあたり、当館の常設展示の一部リニューアルを計画していますが、これらの変化も反映し、進みゆく多文化共生社会に向けたメッセージを発信できるような資料館にしたいと思っています。

引き続き当館の活動へご支援・ご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JICA 海外移住資料館 館長 中根 卓

目 次

1. 展示・教育・広報

- (1) 展示イベント等1
- (2) 教育普及活動9
- (3) 広報活動.....16
- (4) アンケート調査.....18

2. 資料収集・整備

- (1) 資料等情報整備.....19
- (2) 情報システム.....22

3. 研究活動

- (1) 学術研究プロジェクト.....24
- (2) 研究紀要の発行.....25
- (3) JICA 海外移住懸賞論文26

4. 運営委員会・学術委員会

- (1) 運営委員会.....27
- (2) 学術委員会.....27

5. 各種実績等

(1)	貴賓来訪	28
(2)	その他	28
(3)	他館への資料貸出	28
(4)	各種実績データ	30

1. 展示・教育・広報

(1) 展示イベント等

1) 新型コロナウイルス感染拡大の対応および臨時休館

新型コロナウイルス感染拡大等により、2月28日から7月20日まで臨時休館を行った。再開にあたっては、展示場内の感染対策を実施。接触型機材の使用中止、ベルトパーテーションや消毒薬の設置、高頻度接触部位の定期消毒、団体訪問時の人数制限、展示解説の見合わせなどを行った。

また、イベントは対面型からオンライン型へ変更し開催した。

今年度の臨時休館は以下のとおり。

- ・2020年2月28日（金）～2020年7月20日（月）：新型コロナウイルス感染拡大および照明工事による休館
 - ・2021年1月4日（月）～2021年2月9日（火）：館内空調工事による休館
- ※この間は、JICA 横浜1階の会議室1にて、パネル展示や移住貸出教材の紹介を中心としたミニ展示室を開設。国別の移民史紹介パネルや紙芝居などの教材は定期的に入れ替えを行った。

2) 展示、イベント一覧

企画展示1 くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍 -こぎゃんすごか、わさもんと肥後もっこす-

開催期間：7月21日（火）～10月25日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2月28日～7月20日まで休館となったため、開催期間3月7日～6月7日を延期して、上記期間に開催した。

開催期間中入館者数：5,318名



概要：熊本県は、広島、沖縄に次いで海外への移民送出数第3位を誇る移民県となっている。1885年のハワイへの第二回官約移民に始まり、戦前期には68,245人が熊本県から海外へ移住した。

世界へ広がった熊本移民は、移住先でリーダーとなる人材を多く輩出している。「移民の父」と呼ばれる上塚周平は、ブラジル第一回移民船「笠戸丸」に総監督として乗船し、全国からの移民を率いて自らもブラジルへ移住、現地での植民地建設に一生を捧げ、画家のマナブ間部は世界各地で個展を開催しブラジルを代表する画家となった。

展示では熊本移民の歴史と熊本出身の偉人や現在も活躍している熊本にゆかりのある方々を紹介した。さらに移民宿「熊本屋」の再現展示をはじめ、上塚周平の功績を故郷熊本県で次世代へ語り継ぐ顕彰会の活動、さらに熊本県の国際交流事業なども紹介した。

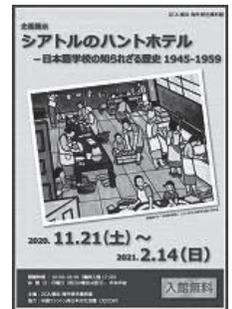


企画展示2 シアトルのハントホテル —日本語学校の知られざる歴史 1945-1959

開催期間：11月21日（土）～2021年3月28日（日）
（2021年1月4日～2月9日まで空調工事のため全館休館となったため、2月14日までの開催期間を、3月28日まで延長して開催した）
開催期間中入館者数：5,088名

概要：米国シアトルにあるワシントン州日本文化会館は、1902年に創立されたアメリカ大陸最古の日本語学校「シアトル国語学校」であった。その日本語学校がホテルとして使われていたという知られざる歴史を紹介した。

展示では、このハントホテルに実際に居住した日系人の体験を辿り、インタビューや証言をもとに、シアトル日本語学校と日系コミュニティの歴史を掘り起こし紹介した。



イベント1 「WEBで開催！ミュージアム・ミッション2020」

開催日：2020年8月1日（土）～30日（日）

参加者：5769（サイト全体のPV数）

概要：横浜市内の関内・山手・みなとみらい地区のミュージアム巡りを、今年はWEB上で開催した。様々なミュージアムが出題するクイズをおうち時間で楽しみながら解いていく本イベントに当館も参加し、野菜山車に関する問題を出題した。開催期間中、特設ページには5769pvのアクセスがあり、盛況のうちにイベントを終えた。



イベント2 「世界最高峰（3600メートル）の日本人移住資料館」

開催日：2020年9月30日（水）19:00-20:00

参加者：125名※Zoomミーティングでの開催

概要：JICA 海外協力隊としてボリビアの事実上の首都、ラパスの日本人移住資料館に派遣されていた岡崎友里氏に、ボリビア日本人移住史を交えながら、学芸員としての隊員活動や、日本人移住資料館の様子について紹介いただいた。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には125名もの参加者が集まり、盛況のうちに会を終えた。



イベント3 「ハロウィンイベント」

開催日：2020年9月29日（火）～10月31日（土）

参加者：153名

概要：資料館の入口を中心に、ハロウィン風デコレーションをしてお客様を迎えた。期間の途中からは、ハロウィンクイズコーナーを設置、クイズに答えて頂いた150名以上の方へ南米のお菓子や資料館特製ペンセットをプレゼントした。



イベント4 「世界遺産都市リマの隠れた名所 日本人ペルー移住史料館“平岡千代照”」

開催日：2020年10月31日（土）11:00～12:00

参加者：90名※Zoomミーティングでの開催

概要：ペルーの首都リマにある「日本人ペルー移住史料館“平岡千代照”」に JICA 海外協力隊として派遣された大野博子氏を迎え、昨年リニューアルされたばかりの最新の展示の見どころや、史料館初代の JICA ボランティアとしての活動の様子などをお話しいただいた。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には 90 名もの参加者が集まった。ペルー観光庁からのプレゼント企画もあり、盛況のうちに会を終えた。



イベント5 「いちばん遠くていちばん近い、ブラジルの日系社会—住んでみた印象は？他国とどこが違う？コロナ禍の今は？—」

開催日：2020年11月26日（木）19:00～20:10

参加者：105名※Zoomミーティングでの開催

概要：ブラジルで活動していた元 JICA 企画調査員（ボランティア事業）の門倉孝行氏と元 JICA 海外協力隊で現 JICA 横浜専門嘱託の水野晴佳氏を講師として、ブラジルの日系社会そしてコロナ禍にあるブラジルの現状についてお話しいただいた。門倉氏には他の中南米諸国との比較を交えつつブラジル日系社会の特徴について語っていただき、また水野専門嘱託からは派遣先であったサンパウロ州リンスの日系社会について興味深い説明があった。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には定員を超える 105 名もの参加者が集まり、ブラジルのリンスと中継を繋いで水野氏と「A história da imigração japonesa em Lins (リンス市の日本人移民の歴史)」の著者である森マリアさんにもお話いただくなど、盛りだくさんの内容で参加者の皆様にお楽しみいただいた。



イベント6 「海外移住資料館の“プチ・クリスマス企画”」

開催日：2020年12月1日（火）～25日（金）

参加者：22名（キャンペーン参加者）

概要：資料館からのクリスマスプレゼントとして、期間中はクリスマスデコレーションで皆様をお迎えした。また、JICA 横浜メルマガ・資料館メルマガ会員の方や新規ご入会の方へ当館特製ペンセットのプレゼントキャンペーンを行った。



イベント7 第一回 JICA 海外移住懸賞論文 最優秀賞受賞者講演会「ブラジル日系二世エリート の立候補と投票をめぐる心情と論理―戦後の民主化における 1947 年選挙を事例に―」

開催日：2020 年 12 月 18 日（金）19:00～20:00

参加者：90 名※Zoom ミーティングでの開催

概要：第一回 JICA 海外移住懸賞論文の最優秀賞受賞者で現在 JICA 緒方研究所所属の長村裕佳子氏を講師とし、邦字新聞を活用しつつブラジル日系二世の政治参加を論じた受賞論文の概要とその後の研究の進捗について講演を行った。一般の方から研究者まで 90 名もの参加者が集い、盛況のうちに会を終えることができた。



イベント8 「ハワイに渡った日本からの移民とその子孫―日米布の関係とその時代背景―」

開催日：2021 年 1 月 22 日（金）19:00～20:00

参加者：170 名※Zoom ミーティングでの開催

概要：アメリカのハワイ州ホノルルにあるビショップ博物館の日本語案内人かつ会員の代表機関委員、ハワイ日米協会理事などの役職を兼任し、当館のボランティアガイドとしても活躍中の浅沼正和氏を講師として、ハワイに渡った日本人移民そして日系人について、初期における苦労や成功、また第二次世界大戦中の苦悩や挑戦など、盛りだくさんの内容でお話しいただいた。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には定員を大幅に超える 170 名もの参加者が集まり、参加者の皆様の笑顔をもって会を終えた。



イベント9 第一回 JICA 海外移住懸賞論文 優秀賞受賞者講演会「『らぶらた報知』の創刊と 「在亜沖縄県人連合会」の設立」

開催日：2021 年 2 月 13 日（土）11:00～12:00

参加者：78 名※Zoom ミーティングでの開催

概要：第一回 JICA 海外移住懸賞論文の優秀賞受賞者の月野楓子氏を講師に迎え、アルゼンチンの沖

縄移民の概要や、戦中戦後の沖縄移民の心情が『らぶらた報知』の創刊と「在亜沖縄県人連合会」の設立にどのような影響を与えたかを論じた受賞論文の概要について、当時の新聞報道を引用しつつご講演いただいた。一般の方から研究者まで 78 名の参加者が集い、盛況のうちに会を終えることができた。



イベント10 「渋沢栄一と、南米を目指した若者たち— 栄一のブラジル移民事業支援 —」

開催日：2021年3月13日（土）11:00~12:00

参加者：164名※Zoomミーティングでの開催

概要：新紙幣の顔に選ばれ、その功績が改めて取り上げられている渋沢栄一をテーマに、早稲田大学非常勤インストラクターの名村優子さんにご講演いただいた。同氏の海外移植民観やブラジル移民事業支援実績のほか、後半は同氏が顧問を務めた「海外植民学校」とその創立者の崎山比佐衛との関わりについて、当時の写真や伝記に残る発言内容をもとに読み解いていった。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には、申込者 213 名、当日は 164 名もの参加者が集まり、参加者の皆様の笑顔をもって会を終えた。



公開講座 1

日系人アイデンティティとの再会

-尺八を通して叶えた、熊本におけるルーツ探し-

開催日：10月3日（土）14:00-15:30

講師：淵上ラファエル広志（尺八奏者）

受講者数（定員）：20名

概要：本講座は4月12日に予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催日を上記日程に変更して実施した。感染対策として、定員20名の枠を設け、座席の間隔を十分にとるなど、密を避ける対策をしながらの開催となった。講師の淵上ラファエル広志氏は、自身が体験したルーツ探しの旅を多数の写真や動画を交えてお話された。

後半のミニコンサートでは、淵上氏のやわらかな尺八の演奏に、ゲストのブラジル日系三世、米谷麻梨氏の三味線と歌と合わせて民謡や唱歌が披露された。素敵な歌声が重なった。参加者からは、「尺八の生演奏は初めてだったが、素敵な音色に感動した」「淵上さんの運命的な体験を聞いて、たくさんの人に知ってほしい話だと思った」等の感想が寄せられた。

※本講座の内容は後日 Youtube にて配信した

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=QBRRmfWR23c>



公開講座 2

「シアトル日本町とワシントン州日本文化会館」の紹介

開催日：2021年1月31日（日）12:00-13:00

講師：中村有理沙（ワシントン州日本文化会館）

受講者数：93名※Zoom ウェビナーでの開催

概要：ワシントン州日本文化会館の日本人スタッフ中

村有理沙氏に、オンラインでシアトルから講演いただいた。中村氏は、日本人がシアトルへ移住した歴史から、現地での生活、第二次世界大戦中の多くの強制収容など、日系人が辿ってきた足跡を分かりやすく解説し、また戦後収容所から引き揚げてきた日系人の多くが住む場所もなく、日本語学校が一時宿泊施設として利用され「ハントホテル」と呼ばれていたことなども紹介した。

参加者からは「とても分かりやすくとても非常に良い機会だった」「今後シアトルを訪れる機会があれば、ゆかりの地を訪ねてみたい」などの感想が寄せられた。



(2) 教育普及活動

1) 教育プログラムの概要

当館では、日本人移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。このような 21 世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、多文化社会の中で異なる文化を受容、尊重し、共生へ向けて行動できる市民としての資質という両方の育成が求められている。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

<p>【学習活動の手引き】無料配布</p> <p>この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示及び各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々の授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。</p>	
<p>【移民カルタ】貸出可</p> <p>日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。</p>	
<p>【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可</p> <p>このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、様々な工夫が凝らされている。（制作：移民カルタ研究会）</p>	
<p>【移民スゴロク】貸出可</p> <p>このスゴロクは、日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズとしても遊べるようになっている。小学生高学年以上対象。</p>	

【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全4種類。

- (上段左) 海を渡った日本人
- (上段右) カリナのブラジルとニッポン
- (下段左) ハワイに渡った日系移民
- (下段右) 弁当からミックスプレートへ



【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。

- ・野菜山車 (画像・トピックシート有)
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート (トピックシート有)
- ・移住斡旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・コーヒー用麻袋
- ・日系人が栽培している野菜
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ (トピックシート有)
- ・スパムセット
- ・Tシャツ (日系コミュニティのイベント等で使用されたもの)
- ・ブラジルの和菓子 (やぶれまんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、緑茶もち、金澤製菓画像。トピックシート有)
- ・ブラジル南米神宮のお守り (南米神宮画像、トピックシート有)
- ・ハワイのビッグファミリー (画像)



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】

<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルの米 ・ブラジルの干柿 <p>これらの教材を实际見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。</p> <p>なお、トピックシートに関してはホームページ上からダウンロード出来るよう対応されている。</p>	 <p>【ブラジルの和菓子】</p>
<p>【定点解説キット】</p> <p>日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等） ・ミックスプレート（写真パネル） ・スーツケース（写真カード入小箱、トランク等） ・移住物語（写真アルバム、複製パスポート） ・花と製品あてゲーム ・農作業具（写真パネル） ・日系商店（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等） ・日系人の食卓（写真アルバム） ・イグアス（空撮写真、アルバム等） ・宝さがし（中高生向写真カード、ゾーンマップ） 	
<p>【映像教材】貸出可</p> <p>日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下6種類は貸出も行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008年、53分） ②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009年、85分） ③DVD「JICA 横浜 海外移住資料館」（制作：2009年、11分） ④DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分） ⑤DVD「100年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011年、57分） ⑥DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013年、40分） <p>※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすずきじゅんいち監督より寄贈を受けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦DVD「Monica and Friends 日本とブラジル友情の絆」（制作：2020年、11分） <p>※本映像教材はMauricio de Sousa Productions Japanより使用許諾を得た。</p>	
<p>【パスポート】</p> <p>当館概要、海外移住の歴史、ワークシート、来館記念スタンプ用紙などを一つの冊子にまとめ、作成した。学生はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、見学後、見学した内容を簡単に振り返る事が出来るよう工夫されている。</p>	

2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、質問事項への対応等を実施した。本年度の教育プログラム実施件数は 65 件、総受講者数は 1,661 名となった。四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
件数	—	15	39	11	65
総受講者数	—	318	962	381	1,661

※件数は実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(a) 第1 四半期：

新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため実績なし。

(b) 第2 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立倉田小学校、横浜市立飯田北いちょう小学校	2	112
中学校	川崎市立臨港中学校	1	10
高等学校	横浜創学館高等学校、横浜商業高等学校、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	3	79
大学・専門学校	上智大学総合人間科学部看護学科、東海大学教養学部国際学科	2	18
その他	横浜市役所港湾局、神奈川県5年次社会体験研修、JICA東京 教師国内研修、横浜市緑区役所、横浜市中区役所、JICA横浜 教師国内研修、横浜市中区役所	7	99
合計		15	318

(c) 第3 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立斎藤分小学校、横浜市立小雀小学校、横浜市立下永谷小学校、代々木インターナショナルスクール、聖ヨゼフ学園小学校	5	277
中学校	八王子市第四中学校、川崎市立西高津中学校、藤沢市立湘南台中学校、相模原市立旭中学校、藤沢市立長後中学校、神奈川学園中学校、座間市立座間中学校、光塩女子学院中等科、横浜市立六角橋中学校、横浜市立芹が谷中学校、公文国際学園中等部、八王子市立いずみの森義務教育学校	12	421

高等学校	川崎市立橘高等学校、クラーク記念国際高等学校、クラーク記念国際高等学校横浜キャンパス	3	81
大学・専門学校	北里大学看護学部、東海大学万城目ゼミ、東海大学教養学部国際学科和田龍太ゼミ、法政大学キャリアデザイン学部松尾ゼミ、恵泉女学園大学フジオカゼミ、文教大学、法政大学キャリアデザイン学部松尾ゼミ、文教大学、武蔵大学アンジェロ・イシゼミ	9	82
特別支援	横浜国立大学附属特別支援学校	1	11
その他	神戸市シルバーカレッジ、横浜市鶴見区役所、横浜市中区役所、横浜市南区役所、年金者組合磯子支部、城南職業能力開発センター大田校施設警備課、ひらがなネット(株)、横浜市国際局、横浜市文化観光局	9	90
合計		39	962

(d) 第4 四半期:

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立下末吉小学校	1	30
中学校	豊島区立池袋中学校、横浜市立港中学校、北区立滝野川紅葉中学校、町田市立堺中学校、八王子市立由木中学校、荒川区立尾久八幡中学校	6	88
高等学校	文教大学附属女子高等学校	1	194
大学・専門学校	東京学芸大学、外語ビジネス専門学校	2	47
その他	神奈川県高等学校教科研究会社会科部会	1	22
合計		11	381

【プログラム例 大学生向け (2時間)】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
- ② パスポートを活用した資料館見学



【プログラム例 高校生向け (1時間)】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
- ② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 中学生向け (1時間)】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
- ② パスポートを活用した資料館見学



【プログラム例 小学生向け (1時間)】

- ① 移住教材貸出による事前学習
- ② パスポートを活用した資料館見学

3) 教育プログラム関連業務

(a) インターン受入

JICA インターンシップ・プログラム制度によるインターン生を計5名(各1ヶ月~3ヶ月)受け入れた。

インターン生は、「海外移住資料館の来館者向け教育プログラムおよび広報業務補佐」をテーマに、邦字紙に関するワークショップや資料館紹介動画の作成など、様々な企画を提案、実施した。

(b) 「おうちミュージアム」 ページ開設

上述のインターン生発案の各種企画をはじめとしたこども向けの教育コンテンツをまとめ、「おうちミュージアム」として当館 web ページに掲載した。

<p>【Monica and Friends I 日本とブラジル友情の絆】 ブラジルの国民的アニメ、「モニカ&フレンズ」でブラジルへの日本人海外移住の歴史と、日本とブラジル両国の協力関係について解説している。日本語版に加えてポルトガル語版もあり、2言語での学習が可能である。</p>	
<p>【おうちでパスポートを発券してみよう!!】 幕末から明治時代と明治時代から大正にかけてのパスポートを画像データにて再現し、自宅にしながら当時のパスポートの変遷を学ぶことができる。また、再現したパスポートで「渡航者は誰だ? ゲーム」も用意し、遊びを取り入れた学習機会も提供している。</p>	
<p>【ぬりえで日本人が移住した国を学んでみよう】 日本人が移住した15カ国の国旗のぬりえをダウンロードし、ぬりえを通して日本人が移住した国を学ぶことができる。また、ダウンロードサイトには各国の面積や人口、日本人移住開始年などの基礎情報も掲載している。</p>	
<p>【移住をテーマにした本を読んでみよう】 北・中南米へ移住した日本人の歴史や、日系人の暮らしがわかる絵本や小説を紹介している。対象年齢別に小学生以上と中学生以上があり、年齢に適した書籍を知ることができる。ここに掲載されている本はすべてJICA横浜 海外移住資料館の閲覧室に所蔵されている。</p>	
<p>【日本人移民関連モニュメントマップ】 多くの移民を送り出してきた横浜には、日本人海外移民のための船が出発した港や宿泊施設があり、さらには移住地との友好関係を象徴するモニュメントが建てられている。これらの日本人移民関連モニュメントを記した地図を用いることによって、日本人移民の足取りをたどることができる。</p>	

4) ボランティア管理運営

(a) ボランティア活動の概要

当館では、以下の業務をボランティアが実施している。

展示案内ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2020年度末時点で、登録者数は20名。なお、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により原則として活動を休止した。

- ・第1 四半期：0 人配置
- ・第2 四半期：1 人配置（貴賓対応）
- ・第3 四半期：0 人配置
- ・第4 四半期：0 人配置

(b) ボランティア連絡会議の実施

本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を見送った。

(3) 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2020年度は1回発行。企画展示の内容をテーマに、展示内容及び資料館の活動などを紹介した。発行部数 7,000 部。

主な配布先は、都道府県国際交流課及び国際課、教育委員会や、各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜及び川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の国際交流協会など、約 2,000 件。その他、常設展示場、閲覧室等で随時配布している。

No.	発行	コンテンツ
54	2020年 11月	特集 シアトルのハントホテル—日本語学校の知られざる歴史1945-1959



2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

(1) 外部媒体への掲載

鎌倉・横浜散歩2021/kita-colle-art/mirea/横浜みなとみらい21、マグカル・ドット・ネット/くまにゅー/ニッケイ新聞/oricon news/yahooニュース/NGO Network JAPAN/Kanagawa Clips/横浜観光情報/銀座熊本館/Partner/RareA/イマカナ/タウンニュース/ヨコハマ・アートナビ/ヨコハマ経済新聞/神奈川新聞/埼玉県国際交流協会/朝日新聞/日系スカラーシップ/日本ラテンアメリカ協会/中区国際イベント情報/JOCA東京 Facebook/ペルーニュース/くまモン東京スタッフ〈公式〉twitter/サンデー毎日/MEGABRASIL/JCCCW/mundi/JUNGLE CITY.COM/YOKOHAMA商工季報/読売新聞/Panambi J. P. 等

3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示及び企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞/神奈川新聞/産経新聞/東京新聞/毎日新聞/読売新聞/ヨコハマ経済新聞/共同通信社/時事通信社/ニッケイ新聞/NHK/JCOM/TVK/日本テレビ/テレビ朝日/TBS/神奈川県政記者クラブ/横浜市政記者室等）。また近隣博物館、商業

施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化理解・共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

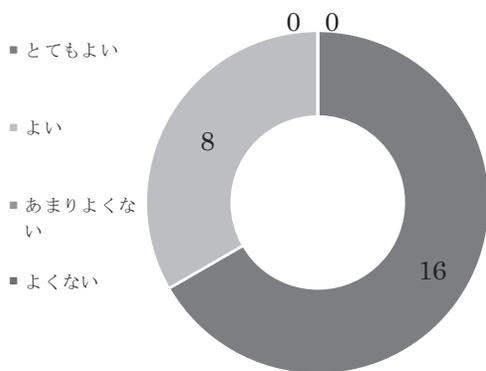
情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2020年度は計12回配信した。メールマガジンは月1回の配信を基本とし、配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2020年度末時点で、友の会会員はDM会員：285名、メール会員：1,621名となった。

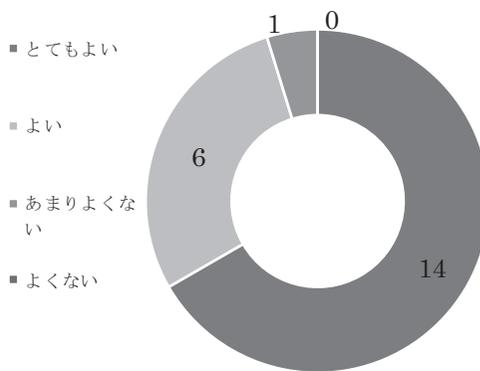
(4) アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した（展示ガイドによる展示解説はコロナウイルス感染症拡大のため実績無し）。回答総数は25件。4段階で評価いただいたが、すべての設問において、無回答を除いた有効回答の9割以上が「とても良い」「良い」を選択しており、大変良好な回答を得た。

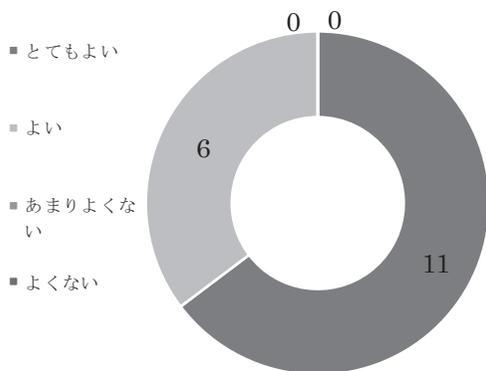
展示の内容



受付の対応



海外移住資料館だより



2. 資料収集・整備

(1) 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を、寄贈、購入、取得等の方法で収集し、登録した。また、前年度までに受入をし、未整理となっていた資料についても、整理、登録を行った。

2020年度受入・登録件数は687件。未整理資料の整理・登録件数は1,951件。

2020年度受入資料の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	11	8	40	62	121
購入	4	7	16	50	77
寄贈	374	37	19	58	488
移管	0	0	1	0	1
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	389	52	76	170	687

未整理資料（2019年度以前受入資料）の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	0	0	9	0	9
購入	0	0	21	0	21
寄贈	415	0	75	166	656
移管	0	247	558	460	1,265
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	415	247	663	626	1,951

2) 資料の整理

(a) 海外移住事業に関する所蔵資料 1. 移住申込書関係資料

旧海外移住センターに保管されていたJICA及びその前身機関が作成・収集した資料のうち、移住申込書関係資料について、これまで、整理作業を行ってきたが、今年度は、JICA沖縄センターから移管された移住申込書関係資料について、整理作業を実施した。

なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと実施している。

作業件数：移住申込書関係資料のスキャン 121件（計1,833葉）

スキャン画像確認・修正 169件（計2,207葉）

(b) 海外移住事業に関する所蔵資料 2. 海外移住センター旧蔵写真類

旧海外移住センターに保管されていたJICA及びその前身機関が作成・収集した資料のうち、情報記載がなく詳細不明な一部写真類については、開館後、元JICA職員の当館ボランティアにより、その内容記入が行われた。その後、未整理のまま保管されていたこれらの写真類について、保存方法の見直し、ファイルへの格納、テキスト入力、数量確認などの作業を実施した。

作業件数：保存方法の見直し、フィルムシート・ファイル格納 444件
当館ボランティアによる記録内容のテキスト入力 734件
写真類に記載されている情報等のテキスト入力・数量確認 846件

(c) 海外移住事業に関する所蔵資料 3. 海外移住センター旧蔵アルバム類

旧海外移住センターに保管されていたJICA及びその前身機関が作成・収集した資料のうち、紙焼き写真、スライドフィルム、ネガ・ポジフィルム等が収められたアルバム類について、補修・デジタル化・目録及び画像データ公開の準備作業として、状態記録（写真撮影・スキャニング）、アルバムに記載されている解説等のテキスト入力、保存方法の見直しなどの作業を実施した。

作業件数：デジタル化済みアルバム 35点（テキスト入力 3,519件）
未デジタル化アルバム 203点（テキスト入力 23,810件）

(d) 海外移住事業に関する所蔵資料 4. 機関誌類

JICA及びその前身機関が作成・発行していた機関誌類（広報用新聞、業務用冊子等）について、発行年の古い資料、利活用頻度の高い資料から優先的に、デジタルデータ化を実施した。

作業対象資料の多くは、1950年代後半から1960年代に作成・発行されたものであるが、留め金具の錆、酸化による紙面の変色や破れなどの劣化が見られたことから、一部資料については、スキャニング作業の前後に補修作業を行った。

作業件数：77紙、6,563ページ、6,821コマ（ファイル形式TIFF、解像度600dpi、カラー）

(e) 伊藤一男関連資料

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長、『北米百年桜』著者）のご遺族より寄贈を受けた資料について、概要入力作業、及び、これまで入力したデータの整理作業などを実施した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと、実施している。

・概要入力作業

資料群ごとに写真撮影、資料番号及び分類記号を付与し、資料の内容を入力した。

作業件数：353件（資料群の数）／50箱（コンテナ数）

・目録データ整理作業

2016年8月に行った整理方針の見直し以降、新規整理方針に則り入力作業を行ってきたが、目録公開を見据えて、旧目録と新目録を整える作業を実施した。

作業件数：旧目録の整理作業 2件（資料群の数）

新目録の整理作業 892件（資料群の数）

・新聞・図書抜出作業

今後の目録公開・閲覧提供を見据えて、新聞、図書として利活用できるものについて、各資料群から抜出する作業を実施した。

作業件数：新聞抜出作業 5,000件

図書抜出作業 102件

(f) 未整理標本類

収蔵品のうち未整理となっている標本類について、概要入力（仮登録）及び詳細入力（本登録）作業を実施した。

作業件数：概要入力（仮登録）581件

(g) 図書資料等

既に登録されている図書資料等を対象とした書誌情報の修正、不足情報の追加、複本確認等の作業を実施した。

作業件数：2,795件

(h) 海外邦字新聞の収集・整理・データ化

2019年度より、「国内外の機関等による邦字紙等日系移民関連資料の保有状況の現況調査・インベントリー作成、収集・保存、当該資料の活用」を目的とした新規業務を継続している。具体的な対象は、中南米で発行された（されている）邦字新聞等である。

所蔵調査に関して、現状中南米邦字新聞をデジタル化・公開している「国際日本文化研究センター海外邦字新聞データベース」および「スタンフォード大学フーバー研究所邦字新聞デジタル・コレクション」の所蔵情報を調査した。2020年度、国際日本文化研究センターでは計177号（「亜爾然丁時報」（アルゼンチン）1944年1月から8月）、スタンフォード大学フーバー研究所からは計265号（「伯刺西爾時報」（ブラジル）、「リマ日報」（ペルー）、「メヒコ新報」「日墨新聞」「日墨週報」「週刊メヒコ」「El Heraldo de Nisei」「El Mundo del Nisei」（メキシコ））のデータが追加されたことを確認した。

データ化に関して、1947年頃に発刊された勝ち組系機関紙「第二開闢」（ブラジル）を伊藤一男関連資料の中から発見し、第1号～第3号及びその付録合計100ページ弱を当館においてデジタル化した。また、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、海外調査を実施することはできなかったが、国内調査の結果、国内の邦字新聞所蔵機関の一つである「学校法人日本力行会」に1946年～1954年にかけてのブラジル戦後邦字新聞で、国内外の他機関に所蔵されていない貴重資料が所蔵されていることがわかった。そのため、同会の協力を得て当該資料計61号416ページの補修及びデジタル化を行った。

(i) その他

上記整理作業実施に伴う格納場所確保のため、収蔵庫各所において、資料の棚移動作業を実施した。

3) 収蔵環境の整備

(a) 特別清掃

常設展示場、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫について、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

(b) 収蔵庫等の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫について、文化財害虫の侵入、生息状況を調査するべく、害虫調査用の粘着トラップを設置。マイクロスコープを使用して、捕獲状況の確認、文化財害虫の同定、記録等を実施した。

(2) 情報システム

1) 情報検索システム

(a) 情報検索システム運用

閲覧室で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2020年度末時点登録数：25,831件（うち図書類：23,984件、標本類：1,847件）。

URL：http://search.jomm.jp/search/html/koukai/k_search.html

(b) 登録データの整備

既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は2,795件。

2) 海外移住資料館 web ページコンテンツ

(a) 運用サーバーの変更

2020年6月30日より、web ページを運用する web サーバーを館内設置のものから JICA 本部管理サーバーへ変更した。運用サーバー変更に伴い、デザインおよびコンテンツをリニューアルした。

URL：<https://www.jica.go.jp/jomm/index.html>



(b) JICA 横浜 海外移住資料館 研究紀要

当館で行われた学術研究の成果を広く社会に発信することを目的として、2006年より刊行している『研究紀要』について、PDF版を製作し、当館 Web ページにて公開した。

URL：<https://www.jica.go.jp/jomm/outline/kiyo.html>



(c) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめている。また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。

なお、本プロジェクトサイトはコンテンツ全体にアドビ社の FLASH（フラッシュ）を使用していたため、アドビ社が FLASH のサポートを 2020 年で終了することに伴い、プロジェクトサイトをリニューアルした。

現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。



- ・ 広島市デジタル移民博物館
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/dmshiroshima/map/>
- ・ オキナワボリビア歴史資料館
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/okinawabolivia/map/>
- ・ アルゼンチン日本人移民史
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/fana/map/>
- ・ ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
URL (デジタル展示日本語): https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_jp/
URL (デジタル展示スペイン語): https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_es/
URL (デジタル展示英語): https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_en/
URL (移民データベース日本語): <http://dji.jomm.jp/jp/>
URL (移民データベーススペイン語): <http://dji.jomm.jp/es/index.html>
- ・ 中南米移住地記録写真集 1964
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/1964top/index.html>

3. 研究活動

(1) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の4プロジェクトについて、2018年度から2020年度まで3年間の活動を行った。

学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

1) 第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献

【概要】1942年、カナダ政府は、カナダ西海岸に居住していた21,000人の日系カナダ人を敵性外国人として内陸部に強制移動した。それらの日系人は、戦後、カナダに留まる者は「ロッキー山脈の東」へ移動、それを望まない者は日本に「送還」、というカナダ政府の通達による選択を迫られた。ロッキー山脈の東への移動を拒否した日系人は、カナダ生まれであっても日本に送られることになり、これは「国外追放」であると言われ、大きな混乱を生んだ。結果的には約4,000人の日系人が、戦争で疲弊した日本に到着したと記録されている。これまでの調査・研究により、これら4,000人の日系人が戦後の日本でどのように受け入れられたか、その後、定着したか、カナダへ戻ったか、についてはかなり把握されている。これらの日系人が日本との絆をどのように意識し、日本とカナダの関係にどのように関わろうとしたのかについて調査する。

【プロジェクトリーダー】飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）

2) 転換期における移住と日系社会の変容（1920～1950年代）

【概要】ベルサイユ体制からワシントン体制そして総力戦体制から冷戦体制の構築に至る時代の転換期における移住と、南北アメリカ大陸諸国における日系社会の変容とを、二国間関係や戦争といった枠組みを越えた多国間関係の史的展開の中に再配置し、参加メンバーがこれまで蓄積してきた各地域の個別事例研究を基礎に議論を重ねることを通じて、移住とエスニック・コミュニティとしての日系社会の変容について、新たな研究地平の再構築を試みる。

本学術研究プロジェクトの活動成果報告の一つとして、南北米における移民の入国管理体制の形成過程と疾病の関係について比嘉マルセーロ氏（フェリス女学院大学教授）の実証研究を基調報告に据えたWebinar「移民と疾病」を実施した（2021年2月26日（金）18時～20時）。

【プロジェクトリーダー】柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

3) 海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー

【概要】本プロジェクトは、前プロジェクト「海外移住150年を振り返る：移動する人の視点からみる国際関係」の問題意識や視座を継承しつつ、対象時期を幕末・明治初期に広げ、海外交流・渡航・移住をグローバルヒストリーに位置づけることを目的としている。従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的にとらえ、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、そして「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトは、グローバルな人やモノの交流、移動との連鎖の観点から、多様な移住の過程で、日本人は「外国人」として、また「人種」として、どのような位置づけがなされていったのか、日本人や日本へのまなざしの変容の背景には何があったのか等について検証する。従来の研究では見落とされてきた初期の海外交流・渡航・移住の歴史について、国家間の「国際関係」の編成過程を背景とした、幕末・明治の初期移住の歴史像を解明し、研究会、公開セミナーや出版等の形で、本プロジェクトの研究成果を広く社会にアウトリーチすることとしたい。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学教授）

4) 在日ラテン系二世の社会参加に関する研究

【概要】本プロジェクトは、日本デカセギ 25 年の節目にあたる 2015 年から 2017 年までの 3 年間にわたって実施した学術研究プロジェクト「在日ラテン系二世の多角的分析」を通して得た知見と体験を新たな研究に生かしつつ、持続的に発展させるために提案するものである。前プロジェクトでは、「日本、南米、もしくは両地をまたにかけて、あるいは、越境という概念そのものさえも超えてゆきつつ成長している出稼ぎ二世の世代」を主たる対象として、日本各地のデカセギ南米人集住地域での調査や、JICA 横浜海外移住資料館を主会場としたイベント（ワークショップやパネルディスカッション）の場における参与観察を実施し、在日ラテン系二世たちの抱える問題や意識をあぶり出してきた。越境する彼ら在日二世のアイデンティティの問題は先行研究でもたびたび指摘されてきたが、その揺らぎは、空間的のみならず時間的なそれも含んでいると考えられ、前プロジェクト内で実施してきた「先祖捜しワークショップ」のようなイベントは、研究の場であると同時に、彼らと日本とを繋ぐ役割をわずかでも果たすことが期待できるだろう。

【プロジェクトリーダー】赤木妙子（目白大学教授）

※本プロジェクトは地方調査やワークショップ等の活動が含まれていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から 2020 年度の活動を見送った

(2) 研究紀要の発行

当館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第 15 号』を発行した（2021 年 3 月発行）。論文題目等は以下のとおり。

【論文】

Charles Wirgman' s Moving Images: Mobility Portrayed in Yokohama
チャールズ・ワグマンの作品— 横浜において描かれる移動
武蔵野美術大学・教授 小澤 智子

Carrying Mikoshi, a Portable Shrine, in Greater Vancouver:
Attempts by the Rakuichi
グレーターヴァンクーヴァーにおける神輿 — 楽一の取り組み
中央大学・非常勤講師 庭山 雄吉

【研究ノート】

初期（1897-1927）のメキシコ日本人移住者の経済地位の変化を把握する試み
— 瀧沢太郎『世界無比の親日国 大宝庫メキシコ』1927 の記述を通して —
津田塾大学・教授 三澤 健宏

【第一回 JICA 海外移住懸賞論文 優秀賞】

中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究
— 『らぶらた報知』の創刊と「在亜沖縄県人連合会」の設立 —
沖縄国際大学 月野 楓子

(3) JICA 海外移住懸賞論文

日本国内に急増する外国人とのよりよい共生が課題となるなか、日本人の海外移住の 150 年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として 2019 年度に「JICA 海外移住懸賞論文」が創設された。

第一回懸賞論文のテーマは「中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究」であり、このねらいは中南米で過去に発行された邦字新聞を活用した研究、または邦字新聞そのものを対象にした様々な研究結果を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、併せて歴史的に貴重な資料である邦字新聞の収集（発見）、保管、活用を促進することであった。

2020 年 6 月に審査結果を発表。以下の 3 名の論文が受賞した。※肩書は受賞時のもの

【最優秀賞】

副題：ブラジル日系二世エリートの立候補と投票をめぐる心情と論理
一戦後の民主化における 1947 年選挙を事例に一

氏名：長村裕佳子さん（上智大学外国語学部特別研究員）

賞金：20 万円

【優秀賞】

副題：『らぶらた報知』の創刊と「在亜沖縄県人連合会」の設立

氏名：月野楓子さん（関西外国語大学外国語学部助教）

賞金：5 万円

【特別賞】

副題：「フジヤマのトビウオ」とブラジル日系コロニアの戦後

氏名：乗松優さん（ポートランド州立大学歴史学部・客員研究員）

賞金：3 万円

第二回懸賞論文はより関心の裾野を広げたいとの願いから、新たに「エッセイ・評論部門」を加えた。日本人の中南米への移住に関する様々な研究結果およびエッセイ・評論を募り優秀な作品を発表することによって日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高めることをねらいとしている。2020 年 12 月に募集を開始し、応募締め切りは 2021 年 6 月末日までとなっている。

4. 運営委員会・学術委員会

(1) 運営委員会

当館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。同委員会は学識経験者および総務部長、中南米部長、国内事業部長、館長により構成される。2021年1月19日に、学識経験者として飯野学術委員長の出席を得て実施した。

(2) 学術委員会

当館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、JICA 横浜所長（海外移住資料館長）により構成される。

【2020年度 学術委員会開催】

- ・ 第1回学術委員会（6月19日）
- ・ 第2回学術委員会（9月18日）
- ・ 第3回学術委員会（12月11日）
- ・ 第4回学術委員会（2021年1月13日）
- ・ 第5回学術委員会（2021年3月12日）

【2020年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学理事・名誉教授
委員	島田法子	日本女子大学名誉教授
	中牧弘允	吹田市立博物館特別館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂岳雄	中央大学教授
	柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授
	熊谷晃子	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

5. 各種実績等

(1) 貴賓来訪

1) 青木豊在ホノルル日本国総領事来館

在ホノルル日本国総領事の青木豊氏が9月14日に来館。ハワイの日系社会に詳しいボランティアガイドの浅沼正和氏の案内で館内を見学した。

2) シニシャ・ベリヤン駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使来館

駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使のシニシャ・ベリヤン氏が9月18日に来館。小嶋茂学芸員の案内で館内を見学した。

(2) その他

1) 中南米地域日系資料館ネットワーク強化会議 ※オンラインによる実施

①第1回中南米地域日系資料館ネットワーク強化会議

2019年9月より開始された中南米邦字新聞等の収集、保存を目的としたプロジェクトの紹介及び進捗報告を行った。

日時：2020年8月22日 AM8時～9時（日本時間）/西葡2カ国語通訳付

内容：邦字紙収集・保存に関する国内外での調査進捗報告および課題・展望の共有

参加者：約100名（JICA海外協力隊含むJICA、日本人会・日系人会、資料館、研究者・研究機関、日本語学校、新聞社（海外））

②第2回中南米地域日系資料館ネットワーク強化会議

日系社会研修のフォローアップセミナーとして、2019年度及び2020年度に日系社会研修「博物館における資料と展示技術の有効活用及びネットワーク強化」コースに参加した研修員による活動報告を行い、所属する博物館の紹介、研修で学んだ内容と帰国後の活動等を発表した。

日時：2021年3月6日 AM8時～10時（日本時間）/西葡2カ国語通訳付

内容：日系社会研修「博物館における資料と展示技術の有効活用及びネットワーク強化」フォローアップ（研修員OB/OGによる活動報告、ディスカッション）

参加者：約65名（研修員OB/OG、日系社会研修対象国の日系博物館及び日系団体関係者等）

2) 常設展示一部リニューアル工事

2021年1月6日、「海外移住資料館常設展示一部リニューアル工事設計・施工業務（一括発注・企画競争）」を公示、同年3月に契約相手先を選定し、同年3月末から2022年3月末を業務履行期間とする契約を締結。

上記工事とともない、2021年12月から2022年3月は臨時休館し、館内の別室にてミニ展示を実施予定。

(3) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像68点	常設展示利用
4/1	日伯協会	図書4点、標本35点	常設展示利用

5/24	長野放送	映像 2 点	
6/18	ブルームーン	画像 4 点	
7/7	日本財団	画像 1 点	
7/18	昭和館	画像 2 点	
8/5	ハウフルス	画像 3 点	
8/14	徳島ブラジル友好協会	パネル 10 点	
8/20	Editora FTD	画像 1 点	
9/3	パカノラ編集処	画像 9 点	
9/25	JICA 沖縄	画像 4 点、図書資料 27 点、映像 7 点、パネル 13 点、標本 12 点	
10/1	ABC ライツビジネス	画像 3 点	
10/6	JICA 中南米部	画像 3 点	
10/14	JICA 中部 なごや地球ひろば	パネル 10 点	
10/14	JICA 横浜総務課	画像 1 点	
10/20	JICA 中部 なごや地球ひろば	画像 8 点	
10/26	テレパック	画像 20 点	
11/25	JICA 横浜総務課	画像 2 点	
11/30	ABC ライツビジネス	画像 3 点	
11/30	青年海外協力協会	パネル 12 点	
12/4	NHK 名古屋	画像 14 点	
12/16	名古屋大学	画像 3 点	
12/17	NHK 静岡	画像 47 点	
12/24	青年海外協力協会	パネル 35 点	
1/30	NHK 名古屋	画像 1 点	
2/12	研究者	画像 10 点	
2/19	オールアウト	画像 3 点	
2/24	オールアウト	画像 3 点	
3/24	テレビ和歌山	画像 25 点	

(4) 各種実績データ

2020年度業務実績一覧

2020.4～2021.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数				450	1,521	1,812	1,910	2,354	1,356	132	1,286	1,783	12,604
(前年度比)				15%	32%	49%	44%	54%	43%	4%	54%		29%
一般				450	1,486	1,590	1,714	1,611	1,154	129	1,189	1,367	10,690
学校関係				0	35	222	196	743	202	3	97	416	1,914
15歳未満				24	140	231	218	692	176	11	102	284	1,878
15歳以上				426	1,381	1,581	1,692	1,662	1,180	121	1,184	1,499	10,726
個人				438	1,414	1,561	1,699	1,611	1,148	132	1,160	1,325	10,488
団体				12	107	251	211	743	208	0	126	458	2,116
オンライン講座/公開講座参加者数							125	90	105	90	297	153	1,024

※開館からの累計: 624,536名

※2020年2月28日～7月20日まで新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため、記録なし

※2021年1月4日～2月9日まで空調工事のため臨時休館(別室にてミニ展示室を開催)

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数				2	5	8	11	21	7	0	2	9	65
実施対象人数				17	89	212	172	636	154	0	63	318	1,661
インターン受入人数(のべ)				0	0	2	2	4	2	1	0	0	11

※2020年2月28日～7月20日まで新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため、記録なし

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	3	4	12	40	27	40	36	45	22	37	38	45	349
JICA	1	1	0	3	1	3	4	1	2	3	2	0	21
教育機関	0	0	0	2	1	5	2	7	6	6	3	6	38
国内団体	0	0	0	5	6	6	6	14	1	2	5	4	49
個人	1	2	10	24	18	21	18	20	8	21	27	31	201
自治体	0	1	0	1	0	0	2	0	1	2	0	2	9
制作会社・マスコミ	1	0	2	5	1	5	2	3	4	2	1	1	27
国外団体	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	4

閲覧室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	33	9	83	56	89	88	110	81	81	59	60	115	864
(前年同比)	10%	4%	31%	21%	28%	45%	48%	22%	29%	19%	31%	174%	28%
一般	0	0	0	13	28	30	25	19	15	11	10	29	180
マスコミ等	0	0	0	2	4	6	10	7	11	0	0	8	48
JICA関係(業務)	33	9	83	41	57	52	75	55	55	48	50	78	636
JICA関係(研修)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	192	108	89	4	22	26	29	42	5	81	36	53	687
(うち取得)	0	0	11	3	3	2	6	32	2	29	16	17	121
(うち購入)	0	3	1	0	7	0	12	3	1	16	4	30	77
(うち寄贈)	192	105	77	1	12	24	10	7	2	36	16	6	488
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
(うち既存資料)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち寄託)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	2,440	4,064	5,143	5,295	2,636	2,617	3,050	3,219	3,891	3,136	3,040	2,977	41,508
Pages(利用数)	5,553	8,592	14,027	18,126	10,207	8,963	10,747	11,138	14,380	10,095	9,819	9,932	131,579

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	1,592	1,788	1,916	2,426	1,710	1,665	1,760	1,786	1,806	1,877	1,466	1,764	21,556
(前年同比)	117%	127%	135%	167%	109%	94%	103%	93%	104%	106%	83%	103%	110%
検索件数	371	435	700	1,081	1,045	795	1,181	2,892	1,391	1,117	565	1,015	12,588
(前年同比)	20%	49%	66%	126%	104%	92%	124%	216%	117%	88%	46%	199%	97%

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2020 年度

**発 行：独立行政法人国際協力機構横浜センター
海外移住資料館**

発行年月：2021 年 6 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-222-7162

Web : <https://www.jica.go.jp/jomm/>

E-mail : jicayic_jomm_info@jica.go.jp

